

二葉すこやか園

プラン

保育の構造

品川区立二葉幼稚園・二葉つぼみ保育園

保育・教育課程の方向

- ◎心豊かな生活体験を通して自我の形成を図り、「生きる力の基礎」を培う
 - 保育者との信頼関係を基盤に（すこやかな）情緒の安定を図り、乳幼児の健全な育成をめざしていく
 - 心身の健康を培う活動を積極的にとり入れるとともに、乳幼児期に重要な心の教育を大切にする
 - 幼児期に道徳性を生活の中で、身に付けるようにする
 - 自然とのふれあい、社会体験、人とのかかわりなど、直接的・具体的生活体験を重視する
 - 乳幼児期にふさわしい知的発達を促す教育（探究心・科学する心など）を大切にする
 - 自我が芽生え自立にむかい、主体的に行動しようとする気持ちが生まれる乳幼児期の発達の特性に応じた、きめ細かな対応をめざしていく
 - 集団とのかかわりの中で一人一人の乳幼児の自己実現を図るようにする
- ◎家庭・地域と連携した子育て支援の充実を図る
 - 家庭と十分に連絡し合い、楽しく充実した子育てを応援する
 - 保護者が保育に関心を持ち、子育てに積極的になれるように支援する

カリキュラムの特色

二葉すこやかカリキュラム

《0、1歳児》

一人一人の子ども様子を的確につかみ家庭的な雰囲気の中でゆっくり丁寧に対応する。保育者との持続的なかかわりの中で、人への信頼感を育てる。毎日の生活で、環境へ進んで動きかけ積極的な健康作りをする。保育者が仲立ちになり、子ども同士関わりが楽しめるようにする。家庭との連絡を密にし、子育て方法を一緒に考え、安心感をもち子育てが楽しめるようにする。

《2、3歳児》

自我の発達を見通した、環境作りと見通しをもった保育計画を作成する。保育者や友達と遊びや生活を楽しみ、一人一人の子ども意欲や好奇心、探求心を高める。園内外の環境を積極的に活用し、安全面に配慮して心と体の健康作りをする。家庭との連携をとりながら、親子関係を軸にし子育て支援を推進する。

《4、5歳児》

「遊びの喜び、遊びの楽しさ、友達のいる楽しさ」を体験できるように、また子どもの主体性や、一人一人のよさや可能性を伸ばしていく。基本的な生活習慣を身につける指導の充実を図り、自立心や自己を抑制する力をはぐくむ。「みんなで気持ちよく生活するため」の環境を、ともに作り出していく。相手を思いやり、ともに生活する楽しさや大切さを、感じとったりする中で温かい人間関係をはぐくむ。自然環境の充実を図り、直接的、具体的生活体験を重視し、豊かな感受性、好奇心、考える力、科学する心、表現力をはぐくむ。家庭との一体感のある教育姿勢を築くとともに、地域の人々、保育園児や年下の友達とのかかわりを通して、生活を豊かにする。

教育目標

- ◎健康でたくましい子ども
- ◎仲良く遊ぶ子ども
- ◎豊かに表現し、つくりだす子ども

〔保育理念〕

- 主体的・意欲的に生活し、自分を表現できる子どもに
- 仲間や周りの人々の存在を大切に思い協力したり助け合ったりすることを喜びにできる子どもに
- 自然に十分親しみ、関心や感動を持てる子どもに

二葉すこやか園経営の方針

ふれあい、学びあい、育ちあいの園生活
タッチ、キャッチ、チャレンジプログラムの推進

- 保育者と子どもの信頼関係を基盤にした子ども同士のすこやかな人間関係の育成
- 積極的な健康作りと、明るく清潔で安全な園生活の確保
- 一人一人の個性や、よさを最大限に伸ばす指導
- きめ細やかな指導と、子どもの発達に応じた援助
- 「みんなで気持ちよく生活するため」の環境作りと工夫
- 乳幼児期の自我の形成と、主体性を育む保育の展開
- 家庭の保育ニーズに応じながら、親子関係を軸にして家族の絆を大切に、子育て支援の推進



具体的な経営の方法

○乳幼児（0歳児～5歳児）の生活に密着した保育

- 年齢に応じ、遊びが十分楽しめる場の工夫（自発的で創造的な活動を促す遊び場作り・異年齢児の交流 多様な生活や自然体験が生まれる環境作り）
- 清潔で、安全なゆとりのある空間を工夫（採光、音声、換気、室温、人の動線に配慮した保育室環境の整備、図書スペース、家庭的な畳スペース、アルコーブデン、などを構成し乳幼児のふれあい空間を構成）
- 給食の実施（保育園の調理室を活用し、幼稚園児に週2回の給食実施）

○教職員が教育、福祉、心理臨床、医療、保育サービスの総合的な視野をもつ

- 保育研究、発達相談、健康指導の体制作り
- 保育スタッフが、制度の複雑化や限定制を越えて「幼児を中心に据えた」連携協力をする
- 保育ボランティアの活用をする
- 地域や近隣の小中学校等との連携を推進する
- 変化や、違いを楽しむ姿勢をもち、連携協力をして研修にとり組む

○家庭や保護者の子育てを支援する

- 「子育てを共に楽しむ 親と保育者」の姿勢をもち
- カウンセリングマインドを保育に生かす
- 乳幼児期にふさわしい生活について、情報（躰、心の教育、心身の健康、個性の伸長などについて）を発信・受信する

幼稚園と保育園
の連携教育0歳児から5歳児の
カリキュラムデザイン
一人一人のよさと、可能性の発揮

ティーム保育の実践

☆ティーム保育の実践（生活区分方式）

学級の枠をこえた実践

保育者の持ち味や得意分野を生かした指導で、多様な経験ができるようにする。職員相互研修の実施

一人一人に応じた援助

ホームクラスを大切に、一人一人の子どもを温かく受けとめ、人間関係の基礎作りや情緒の安定を図る。

乳幼児を多角的な面から理解する

複数の保育者が、一人一人の乳幼児とかかわることで、子ども理解が深まり適切な指導をする。

保育園から幼稚園へ

☆保育園児が3歳から4歳へ進級する際、希望者は幼稚園への入園が可能となる。

幼稚園預かり保育の実施

☆幼稚園では、保育園の保育時間に合わせ、保護者の就労、疾病、介護、出産など家庭の状況に応じ、幼稚園教育時間の前後（午前7:30～9:00、午後2:00～7:30）に預かり保育を実施している。

安心できる子育て



保育園

幼稚園